

---

# 闇の世界

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

闇の世界

### 【Nコード】

N5712K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

怖い夢を見た。

夢独特の不条理さにゾツとした。

(前書き)

怖い夢を見た。

そのまま忘れるのは損なので、書き遺しておく。

晴れた昼。

居酒屋へアルバイトに行く。

今日が初日だ。

八畳ぐらいの畳敷きの店内に入ると、50代ぐらいの怪しい女が近付いてきた。

女は、こげ茶色の髪が肩より少し長く、ウエーブがかかっている。

肌は気持ち悪いほど色白で、口紅は異様に赤かった。

その女も私と同じ新人のアルバイトらしい。

女はしきりに私の住所とメールアドレスと電話番号を聞き出そうとしてくる。

一方他のアルバイトさんは「最近無言電話が多い。」と話しかけていた。

これは怪しいと思って、私は適当にはぐらかして切り抜けた。

家に帰ると、もう夜だった。

蒲団が敷いてある。

その蒲団の上に母が正座している。

母の脇にはばんばんに何かが詰まっている袋がある。

何が入っているのか母に尋ねると

「おばさんにあげるノート。ほら、おばさんの娘さん、今度小学生になるでしょ。」

と言った。

そして母はおもむろにノートを一冊取り出して、パラパラ中身を見た。

そして、ノートの最後のページを見たとき、固まった。

『殺す』と書いてあった。

怯えた母はそのノートの最初のページに、ふるえる手で『警察呼ぶ

ぞ』と書いた。

何故か私は、ノートに殺すと書いたのは、さっきの怪しい女だと思  
った。

適当にはぐらかした仕返しだろう。

気が悪いので警察に電話しよう、家の備え付けの電話の方へ行  
こうとした。

しかし電話が鳴って、父が出た。

その上、長話を始めてしまった。

私の家の電話が一つしかない、これでは警察に電話できない。

電話から聞こえる声は、まさしくあの女の声だった。

父はいきなり私の方を向いて

「電話のコンセントを抜け。」

と怒鳴った。

その迫力に怯えて、コンセントを抜いた。

父は話しながら電話を引きずって、家の外へ出て行った。

通じない筈の電話からは、依然として怪しい女の声があった。

父は「この世には闇の世界がある。覚えておけ。」と言い残し、完

全に見えなくなった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5712k/>

---

闇の世界

2010年10月28日08時38分発行